

# 日銀の視点

日銀が、桜の花びらが描かれた、カラフルな表紙の報告書を公表しているというところ、その意外性に驚くかもしれない。

報告書の名前は「地域経済報告—さくらレポート—」である。日銀支店長会議に向けて全国の支店等地域経済担当部署からの報告を集約したもので、年4回開催される会議に合わせて公表している。全国を九つの地域に分け、地域ごとの景気判断と金融経済概況を記しているほか、調査の

日銀水戸事務所長 稲見 征史

過程で聞かれた企業等からの主な声を（地域名と業種名のみを表示する形で）掲載している。

当日の支店長会議では、支店長等から各地域の金融経済状況について報告がなされるが、会議での主な報告内容は、

情報は、日銀の金融政策に生かされていくことになる。このように、日銀における経済調査は、全国規模で行われており、その過程では、多くの企業等の協力の下に成り立っていることがお分かりいただけると思うが、同時に、

て、先ほどのさくらレポートでは、「関東甲信越」地区の報告の中に反映されている。この場をお借りし、日頃からの県内企業など皆さまの協力にお礼を申し上げたい。

経済は人々の営みの中で日々確実に動いていることを実感することも多く、折々の情報は欠かすことができないものとして、内部で携わる人間としても緊張感を持って確認している。

## さくら色の報告書とは

「各地域からみた景気の現状（2024年10月支店長会議における報告）」といったドキュメントとして公表される。

対外的には、その概要を公表することでフィードバックにも努めている。

同じような状況にあるかや、茨城県経済と関連の深い業種が多い地域で、その波及効果が見れているかなど、その一致や差分を確認する上で、支店長会議時の全国各地の情報は重要なものである。わずかながら3カ月の短い期間であっても

今回は、日銀の定期的な地域経済報告をテーマに取り上げたが、米国においても、さくらレポートに相当する全国12地区の状況をとりまとめた報告書を連邦準備制度理事会（FRB）が公表している。こちらは米国の金融政策を決定する会合（FOMC）の前に公表されており、表紙の色にちなんで「ベージュブック」と呼ばれている。

（次回は12月14日）